II - B - 1

**漢方療法による慢性疲労症候群(CFS)の治療；
ナチュラルキラー(NK)細胞の関与**

京都大学放射線生物研究センター晩発効果研究部門
深田秀樹、狩谷佳宣、○内田温士

【目的】慢性疲労症候群患者（CFS）は欧米のみならず我が国でも最近急増しているが、その病因も明らかにされていないし、その有効な治療法も確立されていない。本研究は、CFSでの免疫異常を明らかにするとともに、その漢方による治療法を検討することを目的とした。

【対象】米国防疫センター（CDC）の診断規準に合致したCFS患者に漢方を投与し、K562その他の標的細胞に対するNK細胞傷害活性、リンパ球のインターロイキン2（IL-2）に対する反応性、DNA合成能を投与前後で測定した。

【成績】CFS患者の血液リンパ球のNK活性は、多くの症例で低下または消失していた。しかし、NK細胞数は正常範囲内であった。さらに、患者のNK活性は、in vitroでのIL-2刺激によっては増強されなかった。IL-2刺激によるNK細胞のDNA合成、増殖もまた誘導されなかった。また血液リンパ球の非刺激状態でのDNA合成は亢進していた。

CFS患者に種々の漢方製剤を併用した療法を行った。補中益気湯、十全大補湯、六君子湯の併用を連日、経口投与することにより、血液リンパ球のNK細胞活性は増強または誘導された。加えて、NK細胞はIL-2刺激に反応して、細胞傷害活性が増強され、DNA合成が誘導された。このNK細胞の機能回復とともに、T細胞のDNA合成の亢進も正常化した。この免疫異常の回復に伴い、極度の疲労は完全に消失または軽快し、精神神経症状、内分泌異常、発熱、リンパ節の腫脹その他の随伴臨床症状も回復した。興味深いのは、漢方による血液NK細胞機能の活性化は常に疲労の消失または改善と相関していた事実であろう。

【結語】以上の成績は、CFSでは免疫系とくにNK細胞システムに障害があり、その漢方を用いた生体応答修飾による修復は、CFSの臨床症状を改善させることを示している。